

鉄道駅周辺の車窓景観による地方都市のイメージ形成に関する研究

秋田大学 学生会員 ○内海 宏基
 秋田大学大学院 正会員 鈴木 雄
 秋田大学大学院 正会員 日野 智
 秋田大学大学院 正会員 木村 一裕

1. はじめに

移動において景色を眺めることが楽しみの一つであるように、交通と景観は切り離せない関係である。その中でも、鉄道からの車窓景観はその都市を訪れる人や通過する人にとって都市のイメージを決める窓口であり、将来の来訪に影響を及ぼす要因と考えられる。しかし、鉄道、特に車窓からの景観への配慮は十分に行われていないと考えられる。本研究は鉄道景観を車窓からの視点で評価し、都市の景観やイメージと車窓景観の関係性や車窓景観の違いが都市のイメージ形成に与える影響を把握することを目的とする。

2. 車窓景観への印象調査の実施

秋田大学土壌環境工学科の学生 144 人（男：127 人、女：17 人）を対象に鉄道車内から撮影した動画を左右同時に見せ、車窓景観への印象調査等を行った。評価対象は、秋田県内で新幹線が停車する田沢湖駅、角館駅、大曲駅周辺の車窓景観で、それぞれ秋田方面へ向かう駅到着の 1 分半前と駅通過後の 1 分半とした。また、都市が特定できないような配慮を行った。車窓景観から感じるイメージを把握するため、SD法により質問した(図 1)。

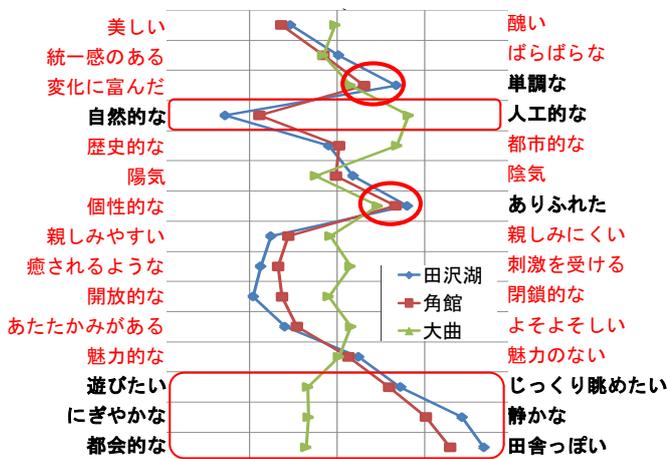


図 1 SD法による各駅周辺イメージ

田沢湖駅と角館駅では「自然的な」、「静かな」、「田舎っぽい」といったイメージ、大曲駅では「人工的な」、「にぎやかな」、「都会的な」といったイメージが得られた。3 駅に共通したイメージとして「ありふれた」「単調な」が挙げられる。

次に車窓景観から得られる印象を明らかにするため、8 つの質問に対して 5 段階で評価して貰った(表 1)。

表 1 車窓景観の印象評価

質問項目	田沢湖駅	角館駅	大曲駅
	そう思う・ややそう思う	そう思う・ややそう思う	そう思う・ややそう思う
自然が美しい	85%	79%	20%
建物が美しい	5%	14%	29%
連続性がある	42%	41%	49%
良好な景観である	51%	50%	27%
特色を感じられる	40%	37%	40%
印象に残る	15%	19%	15%
楽しい・わくわくする	15%	19%	19%
行ってみたい	13%	12%	30%

田沢湖駅や角館駅では、「自然の美しさ」が高く評価され、「良好な景観」としても評価されている。しかし、それ以外の項目の評価は低く、鉄道駅周辺の車窓景観は、街の特色を感じたり、わくわくしたり、印象に残るような景観ではなく、「その街に行ってみよう」とは思わないことがわかる。

また、車窓景観が与える「行ってみたい」という印象に影響する要因を明らかとするために、数量化Ⅱ類による分析を行った。外的基準を「その街に行ってみよう」かどうか、アイテムを他の 7 つの印象の評価とした。得られたレンジの値を表 2 に示す。

表 2 数量理論Ⅱ類によるレンジ値

アイテム	田沢湖	角館	大曲
自然が美しい	0.35	0.42	0.42
建物が美しい	0.76	0.75	0.61
連続性がある	0.62	0.18	0.26
良好な景観である	0.62	0.22	0.16
特色を感じられる	0.18	0.53	0.26
印象に残る	0.71	0.55	0.51
楽しい・わくわくする	1.80	2.08	1.84

キーワード：車窓景観、イメージ、数量化理論Ⅱ類、SD法、意識調査分析

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1 番 1 号 TEL：(018)889-2767 FAX：(018)889-2975

3 駅に共通して「楽しい・わくわくする」のレンジの値が大きく、「その街に行ってみよう」と思わせる要因だといえる。「単調」で「ありふれた」車窓景観の中でその都市に行ってみようと思わせるためには興味を惹くような要素が必要だと考えられる。

さらに車窓景観を構成している要素を 16 項目挙げ、印象に残った要素に対し、よい印象、悪い印象かを 4 段階で評価してもらった(表 3)。

表 3 車窓景観構成要素評価

車窓景観構成要素	よい印象・少し良い印象			悪い印象・少し悪い印象		
	田沢湖	角館	大曲	田沢湖	角館	大曲
遠くに望む山	86%	44%	12%	1%	2%	4%
川が流れている風景	10%	42%	1%	2%	0%	1%
田んぼが広がる眺め	78%	67%	14%	1%	1%	1%
草木などの緑	75%	66%	15%	10%	11%	5%
建物の色やデザイン	7%	17%	32%	27%	17%	17%
古さを感じる建物、民家	30%	19%	8%	14%	8%	7%
機械設備や電柱	7%	5%	20%	22%	17%	17%
駅内の様子	22%	25%	25%	12%	14%	8%
駐車場、空き地	1%	6%	6%	16%	15%	12%
工場や倉庫	8%	6%	21%	30%	17%	29%
道路や車	6%	11%	10%	10%	8%	4%
看板、屋外広告物	1%	6%	21%	6%	5%	10%
マンションやビル	1%	1%	27%	7%	3%	6%
線路近くの木々	37%	29%	9%	16%	19%	2%
線路近くの民家	29%	22%	20%	26%	26%	11%
遠くの集落、街並み	31%	22%	15%	3%	2%	1%

田園や草木などの自然的な要素に良い印象が多く、建物のデザイン、工場や倉庫など人工的なものに悪い印象が多い。地方都市では自然的な要素はありふれているため、行ってみたいとは思わないと考えられる。すなわち、悪い印象として評価された人工的な要素の改善が必要といえる。

3. 鉄道沿線住民への意識調査の実施

本研究では、角館駅周辺の沿線住民を対象に角館のイメージや沿線景観に関する意識調査を平成 25 年 1 月に行った。293 世帯に 586 票を配布し、145 票の回答を得ている。調査では、角館駅周辺で車窓景観を意識した景観整備の必要性を質問している。その結果、80%以上の被験者が「そう思う」「ややそう思う」と回答した。すなわち、被験者は車窓景観に問題意識を有しているものと考えられる。

また、角館に抱いているイメージを車窓景観への印象調査のSD法と同様に質問し、比較を行った(図 2)。

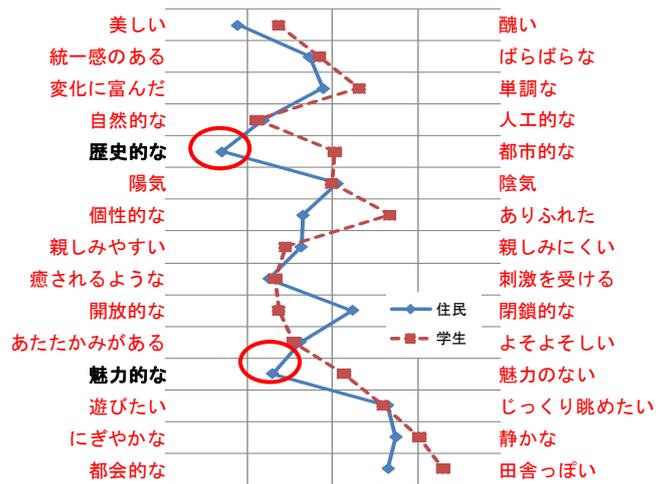


図 2 SD法によるイメージ比較

「歴史的な」「魅力的な」の項目でイメージに大きな差がみられる。角館に住んでいる被験者は、角館に対して、「歴史的」かつ「魅力的な」のイメージを有しているが、駅周辺の車窓景観からそのようなイメージが得られないものといえる。

さらに、鉄道利用者に「その街に行ってみよう」「地域の特色を感じられる」と思わせるために重要と考える要素を質問した。「自然が豊かな眺め」、「歴史を感じる眺め」、「観光情報が豊富な眺め」の 3 つの要素を提示し、一対比較により重要度を算出した(表 4)。

表 4 車窓景観要素ウェイト

	歴史	自然	観光情報
ウェイト	0.56	0.28	0.16

得られたウェイトより、角館の住民は車窓景観において「歴史を感じる眺め」を最も重要だと考えていることがわかる。

4. おわりに

本研究で対象とした、田沢湖駅、角館駅周辺、大曲駅周辺の車窓景観からは「ありふれた」「単調な」などのイメージがあり、鉄道利用者にとって地域の特色を感じたり、その街に行ってみようと思うような景観ではないことがわかった。秋田県内有数の観光地である角館に関しても、住民の持つイメージと車窓景観から得られるイメージには差異があることが分かった。角館の被験者は角館に対し、歴史的なイメージを強く持っており、一対比較の結果からそれが都市の魅力と認識していると考えられる。そのため歴史的なイメージを与える人工的な要素を配置することが有用と考えられる。